

アジアの友

The Asia-no Tomo

10-11

OCTOBER-NOVEMBER

2011

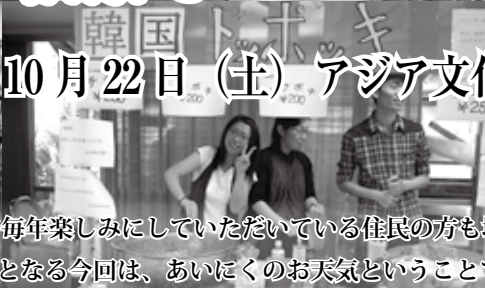
日本へ ABK へ イラクから 44 年振りの里帰り
ムダファー AL. ジャビリさん





ABK秋祭り2011開催

2011年10月22日(土) アジア文化会館



地域の年中行事として毎年楽しみにいただいている住民の方も増えた ABK 秋祭り。記念すべき第 10 回目となる今回は、あいにくのお天気ということで、アジア文化会館内での開催となりましたが、アットホームな雰囲気の中、予想を超える多くのご来場者を集め、大盛況の中開催することが出来ました。



月刊 アジアの友

2011年10－11月号 第493号

目次

巻頭

- 2 日本へ ABK へ イラクから44年振りの里帰り
ムダファー AL. ジャビリさん
- 8 「中日青年交流」
第1回5大学合同フォーラム開催 ～中国・復旦大
- 12 平成23年春の外国人叙勲
Prayoon Shiowattana TPA 会長
『旭日中綬章』叙勲を受ける
- 16 泰日工業大学(TNI)第2回卒業式レポート 水谷 光一
- 私の意見・私の体験
- 20 「留学生に関心がないのはもったいない！」 グエン カム リー
- 23 おたより
- 24 News & Topics
- 25 Event & Festival
- 知友会通信
- 26 奨学金情報、イベント情報
- MEMBERS
- 28 ご入会・ご寄付のご報告
- 募金途中報告
- 28 ABK 同窓生募金(2011年9月31日現在)

<表紙写真> ABK 秋祭り2011の「フィリピンチーム」

日本へ ABK へ イラクから44年振りの里帰り

ムダファール AL. ジャビリさん

半世紀前の日本留学

私は、1940年7月7日にバグダードに生まれました。そして、1960年4月に日本政府（文部省）の奨学金で日本への留学の機会を得て来日しました。日本を留学先を選んだのは、たまたま、その時ロシアと日本への留学のための奨学金があったので日本を選んだわけです。

来日後は駒場留学生会館に入りそこに3か月滞在したのち、ちょうど1960年6月にアジア文化会館（ABK）が竣工し、学生を募集していたので応募し、入寮許可をいただきましたので7月にABKに移ってきました。アラブからは私のほかにサウールさん、オマールさん、サマライさん、それからイランのナイミさんが一緒に入りました。私の部屋は501号室でした。ABKの第1期生ですね。それから5年間、卒業まで文京区のABKから千葉まで通学し、その後研修で、トータル6年間滞在しましたから、40年経とうが、50年経とうが、ABKを再び訪ねるといっても目をつぶっていても辿り着くことが出来ます。

最初の1年間は日本語を千葉大学留学生課程で学びました。その後、千葉大学の建築学科に入りました。千葉大の時の先生は伊藤先



Mudhafar Al. Jabiri, Ph.D.

Prof. of Architecture & Planning
College of Engineering, University of
Baghdad

生、辻先生を覚えています。ABKから毎日千葉まで通いました。大変遠かったですよ！ABKから駒込まで歩いて山手線で秋葉原まで行って、総武線に乗り換えて…。今みたいに電車の本数も多くなかったですし、速度もゆっくりしていましたから。でもそれがそれほど大変だとは思っていませんでしたね。ABKは

自由がありオアシスでしたから。

私は当時、中古のルノーを手に入れて、土日に乗っていました。時々、エンコして問題を起こし皆さんの世話になっていました。ビルマのA先生も中古のフォルクスワーゲンを持っていましたね。

日本の建築家では、丹下健三さんの建築が好きでした。日本にいた頃、ちょうど東京オリンピックが開催され、丹下さんの代々木の水泳競技場など、よく覚えています。

また、私は、学生時代にはアラブ学生協会(Arab Students Association)の会長もしていて、いろいろな活動を企画していました。当時ABKには、いろいろな国の留学生会がありました。

大学では、まだ、留学生受け入れに不慣れなこともあり、いろいろな問題が起り、私も活発だったのでいろいろ問題を起こし、そのたびにABKの田井さん(前理事長田井重治氏)が大学から呼び出され、駆けつけてくれました。田井さんのことは大好きですし、大変気が合い、夜、時々外でおでんを食べながらお酒を飲んだりしました。田井さんは当時、新星学寮に住んでいましたね。奥さんはABKの永田さん(元職員永田隆彦さん)の妹さんでしたね、……。そして留学生はみんな穂積先生のことが大好きでした。50年前の記憶でも、若い時の記憶は正確に刻まれよく覚えていますよ。今では、日本にいた時の全てが美しい思い出ですよ。

帰国後はアメリカにも

大学卒業後、私は6ヶ月間、AOTS(財団法



来日当時のジャベリさん

人海外技術者研修協会)の研修生として清水建設で研修を受けてから帰国しました。ですから、私の日本滞在は、1961年から1966年の6年間になります。

私がイラクに帰ってからしばらくしてAOTSの千代田さんが実態調査でイラクに来ました。それに渋谷さん(建築家、元ABK在館生)がグループでイラクに来ました。また、30年くらい前に、田井さんがイラクに私の大好物の大きな「海苔」の包みを送ってくれたんですよ。とても嬉しかったです。

バグダードに戻ってからは、住宅省(Ministry of Housing)に入り都市計画に携わりました。そして、1970年にアメリカへ渡りシカゴのイリノイ大学で建築学の修士を取得して帰国しました。アメリカには4年間滞在しました。バグダードに戻り政府(自治省; Ministry of Municipality)の仕事につき部長になり、1975 - 1976年の2年間都市計画を推進しました。

その後、1976年から1980年にかけてポーランドのワルシャワ大学で建築学の博士号を取



サダムフセインの独裁軍事政権下では、国民の多くは自由がなく幸せではなかったです。1990年のクエート進攻以降、国連の経済制裁がおこなわれ、10年以上鎖国状態が続きましたので。

まず、8年にわたるイラン・イラク戦争（1980-1988）、1990年のクエート侵攻と1991年の湾岸戦争、

得して帰国し、バグダード大学工学部（College of Engineering, University of Baghdad）で教鞭をとり今日に至っています。

これまでに建築関連の本を3冊出版し、バグダード大学の他にもバスラ大学、モースル大学、スレマニ大学でも教えています。また、1980－1983年にはバグダードに清水建設による15,000ユニットの住宅プロジェクトが展開され、それに私も加わりました。しっかりした建築で、学校、病院、市場などもありとても高く評価されたプロジェクトで、現在でも戦火にあわず機能しています。

度重なる戦禍

この間イラクは、何度か戦争に直面していて、本当に大変でしたが、大学は政治的介入はあまり受けず継続されていました。ただ、2－3ヶ月閉鎖されたこともありました。私は、大学で教えながら、自治省のコンサルタントとして、また、バグダード市の都市計画のコンサルタントの仕事もしていました。

湾岸戦争の時には爆弾がバグダードにもしばしば落とされました。そしてその後の長きに渡る経済制裁で、イラク国民の多くが本当に大変な状態におかれました。2003年にアメリカ主導の多国籍軍がフセイン政権のイラクに侵攻しイラク戦争が開始。その後の占領統治と復興支援のための外国軍の駐留と、国内は不安定な状態が続きました。

一般のイラク国民にとって生活に一番支障をきたしたのは、国連の下した経済制裁でした。これは市民の日常生活に大きく影響しました。物価は上がり、職を失う人も多く、国民の生活は本当に厳しい状況に追いやられていました。そのため2003年のアメリカのイラク攻撃に、国民の多くはそれほど反対の意を示しませんでした。サダムフセインの独裁と軍事政権と経済封鎖で国民の多くは行き詰まっていたから、出口を見出したかったのかもしれませんが、それに、自由もありませんでしたので幸せではありませんでした。アメリカの攻撃は、国民はある程度予測していましたし、むしろ多くの人は歓迎すらしていま

した。13年間に及ぶ経済封鎖は本当に国民にとって大変でした。そんな状況で、外国にも、日本にもなかなか出られませんでした。

自由になって考えたこと

昨年、スペインのバルセロナに会議で行ってきました。新しい体制になり、首相が開放政策をとり海外に行くことを緩和しました。イスタンブールにも会議で行ってきました。エジプト、レバノンといった、中東域内には簡単に行けるようになりました。大学などからは行きやすくなっています。

今回、日本に来れたのは、UIA (Union of International Architecture : 国際建築家連合) の主催する国際会議に参加するためです。UIAの本部はフランスのパリに置かれています。この国際会議は2005年から始まり3年毎に開催される会議で、今年がその第3回目にあたり、9月25 - 30日に東京で開催されました。その会議にイラク代表として参加しました。ちなみに、第1回は2005年、トルコのイスタンブールで、第2回は2008年、イタリアのローマで開催されています。

今、イラクはようやくオープンに、自由になりつつあります。自由になった時、最初に考えたことの一つは、日本に行くことでした。実現するのを本当に楽しみにしていました。今回それが実現しました。日本は高いビルがたくさんでき変わりましたね。最近、イラクの人はマレーシアのクアラルンプールなどに観光旅行に出かけるようになりましたが、日本への観光旅行はビザを取るのは大変難しいようです。

深刻なイラクの頭脳流出

イラクでは、大学の教授の定年は今70歳です。ですから私は今年退職です。しかし、今、大学は77歳まで定年を延ばすことを検討しています。今、大学は、若い研究者が育っていますが、長きにわたる戦争と経済封鎖でイラクからたくさんの研究者がアメリカやイギリスへ出て行ってしまいました。頭脳流出ですね。従って、国内に経験を積んだ研究者が不足しているのです。国情が改善したからと言って頭脳流出した人たちがすぐに国に戻るのには容易ではありません。イギリスにもイラク出身の医者が多いし、アメリカにも沢山のイラク人がいますが、帰りたくても子供が成長して教育の問題などもあり、すぐに戻れない人が多いのです。

私は、幸い3人の女の子に恵まれました。今、長女はコンピューターのエンジニアで、現在は夫とともにオマーンで働いています。次女は建築家で、自治省で働いています。三女は化学を専攻して、厚生省に勤めるかたわら薬局を開業しています。私は、1980年に、バグダードの600㎡の土地に自分で設計したヨーロッパアンスタイルの家(200㎡)を建て暮らしています。今年退職したらゆっくりしたいと思っています。30年以上働き続けたので疲れました。請われている政府のコンサルタントは続けますが、あとは趣味の庭造りをしたり、旅行をしたりするつもりです。

フセイン政権下で、私自身には何もなかったのですが、友人のサマライさん(SADI AL-SAMARRAI、(九州大学医学部卒、1970/4 ~ 7 ABK 在館)は気の毒なことをしました。サ

マライさんは日本から帰国後、バグダードの私の家の近くにいましたので親しく行き来していましたが、息子さんが19歳の時、偶発的なトラブルに巻き込まれ、命を失ったのです。その心痛のため、サマライさんも病気になる、亡くなってしまいました。日本人の奥様は、今お一人でバグダードに住んでおられます。私は、時々奥さんと日本語で話をする機会がありましたので、今でも日本語が少し話せるのです。サマライさんの家の庭は、清水建設がイラクで住宅プロジェクトに来ていた時作ったものです。また、私とほぼ同時期にイラクから日本に留学し、建築を専攻していたサウルさんは、大学卒業後、鹿島建設で働いていましたね。奥さんは日本の方です。その後、心臓手術をし、今は、アメリカに行かれているようですね。

山積みの国内問題

イラクは国内にも問題があります。宗教、民族問題があります。クルド、シーア派はイランの影響が、スンニ派はサウジアラビアの影響が強く資金援助などもあり、これまでもいろいろな問題が生じています。しかし現在、イラクは、首相はクルド、大統領はスンニ派、国会議長はシーア派と政府の中枢がバランスをとり歩み寄っています。アメリカ軍が駐留し、アメリカの間接的コントロールもありますが、それほど強い影響ではないですし、アメリカ軍は撤退をはじめています。でも、一部の人は国の治安維持安定の為、駐屯を希望しています。

今、アメリカの占領プロセスの下イラクに

民主主義が入ってきています。民主主義はイラクにとって新しい思想なので、取り入れ、定着させるには時間がかかります。一步步、世代から世代へと何世代かかるでしょう。子供の時から教育が大切です。若い世代から民主主義とは何か、自由とは何か、……と。文化も重要ですね。

日本企業は積極的アプローチを

そして、今、イラクは長い間の戦禍からの再建が始まったばかりです。駐イラク日本大使を訪ねて、イラクの再建に日本の果たす役割は大きいと話をしています。日本のJICAが来て調査を初めています。考えつくだけでも社会的インフラ、港の建設、道路、地下鉄の計画、工場建設等々。外国の企業もまだ少なく、現在、いくつかの国と協議を始めています。日本の企業はイラクでも有名なので、もし来てくれるようであれば大歓迎です。すでに、イタリアの企業がバスラの港湾工事を始めています。韓国も来て活発なアプローチをしています。中国からは衣服とか日用品の安いものが入ってきています。日本の企業からはまだそれほど積極的なアプローチがみられていません。私は、住宅プロジェクトに関心があるので、建設会社に関心があります…。

日本では景気後退で若者が働く職場が少なくなっていると聞きましたが、イラクはそうした若者は歓迎します。イラク人はアジアの心を持っていますし、1970年代後半にはイラクに日本企業も来ていましたし、日本人もたくさんいました。技術者、医者、パイロット、看護師、ホテル経営など、几帳面で計画的な



小木曽 ABK 理事長と

仕事をする日本人は歓迎されます。イラクでもコンピューター化は進んでいるので、若い人たちには良いと思いますよ。英語が出来れば問題はないですよ。

新しいスタートを

今度の来日を契機に、ABK との交流を再開しバグダードにも同窓会を作って何かやりた

いですね。JICA の同窓生は 100 ～ 120 人くらいいると思いますが、留学生はわずかです。6 ～ 10 人以内でしょう（私、サウルさん、サマライさん、オザクさん…）。Facebook で、メールで交流を少しずつ始めましょう。

（以上は、ジャビリさんのインタビュー記事を編集部でまとめたものです。文責編集部）

ジャビリさん、ほぼ半世紀ぶりに ABK を訪ねて下さってほんとうにありがとうございます。50 年近い年月を経て、消息がなかったジャビリさんが突然目の前に姿を現し本当に嬉しかったです。ジャベリさんから連絡が途絶えていたので、アメリカにいるのかな、イラクにいるのかなと、思っていました。ずっとイラクで働いていたとは思いませんでした。イラクにいたんですね！ 半世紀も経つのに 50 年前の記憶があまりにも明瞭なので本当に驚きました。ABK、AOTS の職員のこと、在館生のこと等、当時のことを詳細に覚えているのには驚嘆しました。同窓会の話が出たので、ジャビリさんに ABK 同窓生募金の話をすると、早速ご協力くださり、初めてのイラクからのご寄付を受取ることができました。一つ残念なことは、田井さん訪問が実現できなかったことです。（小木曽）



フォーラム出席者勢揃い（14日）

2011年10月14、15日の2日間、中国・上海の復旦大学において、「中日青年交流」第1回5大学合同フォーラム（中日青年交流中心 首次5校聯席研討会）が開催され、復旦大学はじめ、北京大学、精華大学、上海交通大学、浙江大学の名門5大学、また、日本から「日中青年交流センター」の建設を表明した東京大学の代表が出席、中日青年交流センタープロジェクトについて討論した。なお、北京からABK同窓会(中国)世話役の賈蕙萱(北京大学教授、中日経済技術研究会副会長)先生、日本から当協会小木曾理事長、萩野(工藤)常務理事が招かれて出席した。このプロジェクトは、香港の商社・永新企業有限公司の副会長を務める実業家・曹其鏞氏^(注)が、中日青

年交流と相互理解のために5大学各校に寄贈した寄付により誕生したものである。

なお、フォーラム終了後、10月15日～21日、杭州・寧波を訪ねる研修・親睦旅行が行われ、小木曾、工藤両名も参加した。

(注) 曹其鏞(Ronald Chao)氏は、1957年、日本へ留学、東京大学工学部を卒業した後帰国、父の創設した会社(永新企業有限公司)の跡を継いで社長、副会長を歴任し、香港実業界で活躍された。日本留学中は、60年7月～62年8月、穂積五一氏の創設したアジア文化会館(ABK:東京都文京区本駒込)に第一期生として滞在し、アジア・アフリカ・ラテンアメリカの留学生・技術研修生、日本人学



復旦大での5大学合同フォーラム（14日）



挨拶する曹其鏞さん（14日）



フォーラムにおける工藤さん、賈蕙萱さん（14日）



（右端）曹其東さん（其鏞さん弟でやはりABK 同窓生）（14日）

生たちと生活を共にし交流を深めた。爾来ほぼ50年、穂積五一氏、田井重治氏（前同理事長）、杉浦正健氏（同創設関係者、元法務大臣）、小木曾友氏（現同理事長）等のABK関係者をはじめ、日本各界の人々と親交を深めながら、日中民間交流の促進に熱意を注がれ、今日に及んでいる。

曹氏が、このようなことを考えるに至った背景には、今日の中日関係に対する深い憂慮がある。（関連記事：『アジアの友』2011年2-3月号（No.489）ご参照）

中日青年交流センター 5大学共通ロゴを
発表（14日）

各メディアに掲載された関連記事

<産経ニュース 2011/10/14>

東大も交流センター建設へ 曹氏の呼び掛け契機

東京大学の杉山健一副理事は 14 日、上海市内の復旦大で開かれた「中日青年交流センター」に関する会議で、香港の大規模企業集団、永新企業有限公司の曹其●（＝金へんに庸）副会長の呼び掛けを契機に、東大にも「日中交流センター」（仮称）を建設する計画が固まったことを明らかにした。

杉山氏によると、交流センターは、文京区目白台の東大医学部付属病院施設の跡地に建設予定の「国際宿舍」の一角に設置する計画。2014 年 9 月の完成を目指す。

東大には現在、約 3 千人の留学生が在籍し、うち約 3 分の 1 を中国人が占める。（共同）

© 2011 The Sankei Shimbun & Sankei Digital

<上海共同通信 2011.10.14>

名門5大学に日中センター 香港実業家が12億円寄付

【上海共同】香港の実業家が日中関係改善のため計約 1 億元（約 12 億円）の私財を投じることを決断、この資金を基に北京大や復旦大など中国の名門5大学に「中日青年交流センター」を建設することが決まり、5大学の関係者ら約 60 人が 14 日、上海市内の復旦大で初の合同会議を開いた。

各大学は、交流センターを学生寮などとして使う予定。2部屋1区画を日中の学生2人が共有する計画も進められており、共同生活などを通じて人間関係を構築、長期的に両国関係の強化につなげていく狙いがある。実業家は香港の大規模企業集団、永新企業有限公司の副会長で、1958 年から 62 年まで東京大学に留学した経験を持つ 曹其■（そう・きよう）氏（72）。尖閣諸島（中国名・釣魚島）付近での漁船衝突事件で日中関係が極度に悪化したことなどを踏まえ、強固な両国関係構築のためには若者同士の交流の深化が欠かせないとセンター建設を思い立った。

北京大、復旦大のほか清華大、上海交通大、浙江大にそれぞれ約 2 千万元が寄付され、各大学は新規設置や既存の学生寮の大幅改装などでセンターを建設。合計で 100 ～ 200 人程度の入居者を想定し、2013 年ごろのオープンを目指す。北京大だけは既に改装工事を終えたとしている。

曹氏は「若い人たちの交流が深まれば、あらゆる可能性が広がるはずだ」と語り、若い世代の力に期待を示した。（同一記事が東京新聞、茨城新聞、大分合同新聞等に掲載）

<NHK ニュース（主要）2011.10.15>

私財で「中日青年交流センター」

日本と中国の大学生が交流を深める場を作り日中両国の友好に役立てたいと、香港の実業家が、日本円で 12 億円余りの私財を投じて、中国の 5 つの名門大学に「中日青年交流センター」を設置することになりました。

「中日青年交流センター」は、香港の実業家、曹其＊よう（そう・きよう）さんが、1 億人民元（日本円で

12億円余り)の私財を投じて、北京大学や清華大学、それに上海の復旦大学など中国の5つの名門大学にそれぞれ設置するものです。この計画について話し合うため、各大学の関係者が14日に上海に集まり、初めての会議を開きました。交流センターは、日本からの留学生と中国の大学生がともに利用する学生用の宿舍や、日本に関する本を集めた図書室、さらに和室などから成る予定で、いずれも再来年ごろの完成を目指しています。73歳の曹さんは、学生時代に日本に留学し多くの友人を作った経験から、大学生の交流の場を作ることによって日中両国の友好に役立てたいと私財の提供を決めたということで、「青年たちは将来、大きな力になる。この事業を通じて交流と理解が深められればいい」と話していました。(＊よう＝金へんに庸)

<「人民網日本語版」2011年10月18日より(人民中国他多々掲載)>

上海2大学、「中日青年交流センター」設立へ

「中日青年交流」第1回5大学合同フォーラムが今月14、15日の2日間、復旦大学で開催され、北京大、清華大、復旦大、上海交通大、浙江大の名門5大学の代表が出席、中日青年交流センタープロジェクト構築について討論した。「新民晩報」のウェブサイト「新民網」が伝えた。

フォーラムでは、各校のプロジェクト建設案および管理案について深い議論が交わされ、いくつかの点で合意に達した。各代表は、日本人留学生の受入れ状況のほか、建築計画、宿舍計画などを発表した。

復旦大学中日青年交流センターは「寄宿センター」と「活動センター」で構成され、中国人学生と日本人学生の共同生活を計画。日本人学生は中国政府奨学生もしくは大学間交流寄宿費用免除学生を中心に、空き部屋がある場合は希望する自費留学生を選抜する。中国人学生については希望する学生について、日本語学部、国際関係学院を中心に全校から選抜する。

上海交通大学の計画は、「徐匯留学生公寓(アパート)」「閔行留学生宿舍」を改装、日本人学生は学位取得、中国語学習、交流交換の各留学生、および科学研究協力を行う若年学者が入居する。そして中日文化、とりわけ日本文化に興味を有する優秀な中国人学生・若年学者、さらに中日友好・文化交流サービスを志す外語学院日本語学部の中国人学生と留学生にも開放する。

「中日青年交流センター」プロジェクトは、香港の商社・永新企業有限公司の副董事長(副会長)を務める著名実業家、曹其ヨウ氏が、中日青年交流と相互理解のために寄贈した2千萬元(約2億4千万円)により誕生した。(編集 HT)

寧波市・天一閣古舞台での古典劇観劇。これは、寧波市政府招待によりはじめて実現したもので、一般観光では見られない珍しいもの。
天一閣は1561年建設で、現存する中国最古の民蔵書文庫。



平成23年春の外国人叙勲

Prayoon Shiwattana TPA 会長

『旭日中綬章』叙勲を受ける

平成23年春の叙勲は、東日本大震災の影響により決定が延期され、6月17日に閣議決定がなされました。今年の外国人受勲者は桐花大綬章、旭日章*、瑞宝章合わせ59名の方々となっています。（*旭日章は社会の様々な分野で功績を上げた人が対象となっています。）

Prayoon TPA 会長の叙勲伝達式は、8月4日に在タイ日本大使公邸で行われ、小島誠二特命全権大使から授勲の功労概要として「日本・タイ間の経済技術関係の強化に寄与」したことが述べられ、勲章が授与されました。その席上、Prayoon 会長から受勲の謝意とご挨拶がなされ、日本留学中の三つのエピソード



Prayoon TPA 会長

と一つの出会いが、その後の氏の人生のメルクマールとなって、タイ日両国を繋ぐ場で仕事と社会的活動が続けることができ、今日の叙勲に至ったとの話をされました。ここにそのご挨拶を掲載いたします。

なお Prayoon 会長は10月の来日の折に次のようにも述べられています。

「今回の叙勲は、自分一人の叙勲ではありません。これまで、一緒に活動してきたタイ日両国の関係者みんなの叙勲だと思っています。今回の叙勲により、TPA での活動をはじめ、タイ日間の架け橋となる仕事に携わってきたことが認められ、大変嬉しく思っています。叙勲を励みに、今後もがんばって下さいと日本



大使館での授与式 小島誠二特命全権大使（右）



から背中を押されたと思っているので、これからもタイ日双方にとって意味のある仕事に携わり、架け橋となってタイ日の友好関係に尽くしたい。特に、後輩に伝えたいことは、使命感を持って行っていることはやり通してください、どこかで必ず誰かが見えています。」

Prayoon 会長には、後継者の育成と今後のますますのご活躍を期待しています。



友人、関係者との記念撮影



Mr. Prayoon Shiwattana:TPA 会長。タイ国立科学技術開発機構副長官、タイ国立計量研究所所長他歴任。

TPA (泰日経済技術振興協会) : 1970 年に通商産業省 (経済協力政策課) で『タイ国における対日感情が悪化しつつある現状に鑑み、同国に対する純粋な民間ベースの経済協力を行う必要がある』という新構想が検討される。これを AOTS (財団法人海外技術者研修協会) バンコク事務所を通じタイ国アジア文化会館同窓会に諮り、この構想を推進することに。1971 年穂積五一 AOTS・ASCA (財団法人アジア学生文化協会) 理事長が訪タイし、同窓会やタイ国の政財界、マスコミなど各方面の意見を聞く。1972 年 TPA の日本側の窓口となる JTECS (社団法人日・タイ経済協力協会) が設立認可。TPA の設立責任者ソムマーイ氏が来日しタイ側の自主性確保に関して日本側と懇談後、1973 年 1 月設立。運営推進の主体は元日本留学生・研修生が担う。以降日本からタイへの技術移転機関としてタイ国への適正技術を紹介・普及し、タイの工業化に大きく貢献してきた。1998 年技術振興センター (TPI) 竣工。通商産業省からの国庫補助を 2003 年まで受け事業を展開してきた。その後も、タイ国内に定着した事業を自主展開し、日本からの受託事業他、タイ国内への産業技術の普及を展開している。また、数多くの専門書を出版する。日本語教育、タイ語教育にも力を入れ、日タイ双方の専門家が協力してテキスト開発を行い展開・普及してきた。2007 年には TPA の長年の夢であった TNI (泰日工業大学) を設立。

<在タイ日本大使公邸での旭日中綬章伝達式でのご挨拶>

三つのエピソードと一つの出会

Prayoon Shiwattana

今晚の叙勲式典を開催して下さる日本政府、そして、小島誠二大使閣下に、心より感謝申し上げます。

また、お忙しい中、集っていただいた、日本及びタイの関係者の皆さま、友人及び同僚の皆様に、心から感謝の意を表したいと思います。

不束ながら、今晚の光栄ある受勲にいたるまでの私の体験を簡単にお話しさせていただきたいと思います。それは、日本留学時代に深く心に残っている、また私の人格に影響を与えた、三つのエピソードと一つの出会についてです。

まず一つ目は、1967年4月の日本留学の1ヶ月目でした。千葉大学留学生部のオリエンテーションで、大槻先生が、日本語の難しさと大切さについて留学生に強く注意しました。この難問を乗り越えなければ学問の習得の障害になり、留学の目的まで損なう事になると忠告されました。最後に、先生は、“万里の道も一歩から”と結んだのです。私は、その言葉を、すべての事、どんな大変な仕事でも、先ずはやって見なければ始まらないと解釈しました。

次は、1970年の大学3年の夏休みに電気通信大学の友人、武田君と一緒に四国・関西地方へ旅行しました。その途中、吉野山をめぐり、武田君から日本の歴史や英雄達の話聞かせて貰いました。話しのなかで彼は、私に、「君、大学を卒業してタイに戻ったら、ぜひ日本とタイの架け橋になって欲しい」と言いました。その時、この“架け橋”の重みをまだ十分に解っていなかった私は、「うん」と頷きました。40年たった今、武田君との約束を多少とも果たすことが出来た、と考えてもいいのでしょうか。

3つ目は、1973年の秋のことです。大阪大学の修士課程に在籍していた時、私は千里留学生会館に住んでいました。会館には、私を息子の様に愛してくれる

おじさんがいました。人間としてまだ中途半端だった私の態度を機会ある度に注意してくれるおじさんでした。ある晩、色々話しを交わした後、おじさんが言いました。「君、“旅の恥は掻き捨て”と言う日本のことわざがあるんだ。旅に出た人が、もうそこには二度と戻らないと思うから、旅先では恥ずかしい事でも平気でやる、と言う意味だ。君はタイに戻るからと言って、絶対その様な態度にならないように」と注意されました。国の内外を問わず、どんな場所にいても、自分の言動や行動に責任を持て、という示唆だったと思います。

そして、一つの出会いは、1974年、海外技術者研修協会の研修生で、アジア文化会館に宿泊していた時のことです。ある日、会館の創立者である穂積先生と出会いました。先生は、日本の「日タイ経済協力協会」、そしてタイに設立された「泰日経済技術振興協会（TPA）」の話を私にしました。その設立にかかわる政治経済的背景とその目的を、大卒間もない私に時間をかけて丁寧に説明して下さいました。そして、協力の大原則は“お金は出すが、口は出さない”と言うこと、つまり、タイ側の自主性を尊重することだ、と話されました。そして、最後に先生から「タイに戻ったら、是非この泰日経済技術振興協会と言う場を活用してタイ社会に大いに貢献してほしい」と勧めて頂きました。

この三つのエピソードと穂積先生との出会いは、今日に至るまでの私の出発点であったと信じています。これまでご指導頂きました故人となられた先生、友人に心より感謝いたしてます。また、その後私と共に、タイと日本の友好関係のために一緒に苦勞、奮闘してきた友人、同僚及び同志の皆さまに心より感謝いたします。

最後に、私を常に後ろから支えてくれた妻と息子たちに、この場をお借りして感謝の気持ちを伝えさせていただきます。

今晚のこの受勲を励みとして、これからも一層、タイと日本との友好関係に力を尽くして頑張ることを決意いたします。

ご清聴、どうも有難う御座いました。

2011年8月4日

在タイ日本大使公邸にて

泰日工業大学（TNI） 第2回卒業式レポート



泰日工業大学 学長室専任講師 水谷光一

2011年9月11日、泰日工業大学（TNI）第二回学位授与式（卒業式）がバンコク東部の SuanLuang Rama IX*で行われた。

当日は朝から小雨が降るあいにくの天気だったが、卒業生とその家族や在學生は朝早くから会場にやって来て写真撮影に精を出していた。何しろタイの人が大学の学位授与式にかける力の入れ方は並大抵ではない。

特に有名国立大学や大手私立大学の場合はこの日のためにバンコク中が渋滞になったり、都内のレストランが予約でいっぱいになったりするほどだ。

いくらなんでもそれは大袈裟では、と思われるかもしれないが、一人の卒業生に対してまず家族、そしてその兄弟、つまり親戚一同が地方からお祝いに駆けつけ、親はそのお礼に食事をご馳走し、宿泊を手配してあげるほどの一大イベントなのだ。

加えて、中学・高校の友人、タイの場合は社会人大学生も多いので、会社の同僚が加わることになる。

泰日工業大学からは今年（年度としては昨年4年生になり今年9月卒業式典を行うので、2010年度学位授与式典となる）学位記を授与されるのは合計270名で、内訳は学部卒業生223名、大学院（修士）卒業生47名で、学部生は2007年に入学した学部第一期生である。第一期生の卒業式であれば、当然今年が第一回の卒業式になるはずだが、大学院、一部の学部社会人学生は2007年の開学時から履修しており、大学院は2年、学部編入の社会人も2年半で修了者が出ていることから、昨年2010年9月11日に約70名の修了者で、第一回卒業式を行った。



卒業生を出迎える外国人講師たち（手前が筆者）



2007年の入学式 屋外会場



2007年の入学式 まだみなあどけない



入場する工学部学生

まだ建設したばかりの校舎で冷房も何もない屋外の食堂にイスを並べて入学式を行ったのが2007年のこと。もう4年も経ったというのは、嘘のようなあっという間の話だ。

2007年の1月に入学試験を行ったものの、いったいどのくらいの受験者が集まるかは手探りの状態であった。入学試験が済み、高校から入学した新入生は256名であったが、残念ながら勉強についていけず中退した学生、他の大学に合格して去っていった学生もいた。そういったことから、この日は一期生とともに大学立ち上げに尽力した教員・職員には大変感慨深い卒業式となった。

午後1時、雨も止み、在校生が持つ学旗、学部旗に迎えられ、卒業生が入場した。学生たちが卒業式に臨む姿はこの日のためにオーダーメードで作った白のレースのガウンである。普通タイでは欧米を模倣して黒の厚手の生地ガウンをまとう大学が多いのだが、学生には暑くてかわいそうだ。それにほとんどの場合、ガウンは高価なのでレンタルである。TNIのこのレース地のガウンは軽く、暑くなく（その代わり中に着ているTNIの公式行事用制服は詰襟で暑そうだが）さほど高価ではないので、ほとんどの学生が購入したと聞いている。

最初に入場するのは、青い学部旗を掲げた



情報学部卒業生たち



式典会場の様子



この日のために美しく変身した女子学生たち



お世話になった先生と写真を撮る卒業生たち

工学部学生である。学生は、いつもと違って緊張気味。特に女子学生はこの日のために美容院に行って、髪を結い、メイクアップの専門家にお化粧をしてもらうのである。考えてみれば親も相当な出費だ。

次に情報学部、経営学部と順次入場、着席し10名ずつ立ち上がり舞台横で待機し、一人ひとり名前を呼ばれると、テンポよく壇上に上がり学位記を受け取る。

学位授与を受けた学生は前述の通り270名、学長の挨拶、クリサナボン大学学長官の記念講演、国家、校歌斉唱など式典は3時間ほどで終了した。

今回日本からは泰日工業大学の学生を日本に招聘するなど功績の大きかった「もの作り大学」の神本武征（かみもと たけゆき）学長に来賓としてお越しいただき、TNI クリサダー学長から表彰の盾が贈られた。

学位授与式が済むと今度は先生たちと記念撮影が始まる。みな4年間お世話になった先生とさっきとは違ったうれしそうな表情でファインダーに収まっていた。

私たち外国人講師も卒業生が退場してくるのを待って花をプレゼントした。

この4年間、学生との思い出がよみがえっ



親族と写真を撮る卒業生



日本人の先生と写真を撮る卒業生

卒業生と一緒に写真に収まるご来賓の
神本ものつくり大学長（右から4人目）

てくる。本当にあっという間だった。親と喧嘩をしてまでTNIを選んでくれた学生、ターック県の山地民族でバンコクに来る資金もなかった経営学部の学生、バンコクの日本大使館が閉鎖され、チエンマイまで日本行きのビザをとりに行った学生、よさこいや盆踊りに熱中していた学生、資金不足で日本大会に出場が危ぶまれた学生フォーミュラーレースなど、今となっては皆いい思い出となっただろう。

この間院生を入れて433名だった学生数は3500名に、30名程度だった教員も現在160

名になっている。一期生の就職も大学院に就職した者、就職を望まない者を除けば99%が就職（自営も含めて）したことになる。

初の卒業生を出した泰日工業大学は5年目を迎えて、これからが真価を問われるものになっていくだろう。

※ タイ語で “Suan-Luang, Ro-9(Kaw)、英語ではSUANLUANG RAMA IXと表記される。ラーマ9世王記念公園とでも称したらよいだろうか。国王の生誕60年を祝い、1987年12月5日に落成した。

留学生に関心がないのはもったない！

グエン カム リー (Ms. NGUYEN Cam Ly) ベトナム

東京大学大学院情報理工学系研究科 コンピュータ科学専攻 (修士2年)

売るためのアルゴリズム

今、私は商品の適切な価格を知るためのアルゴリズムについて研究しています。例えば、ある数量の商品を売り切るためには、価格をいくらに設定すればいいか。好みや価値観が違うお客さんの誰もが納得して買ってくれる値段はいくらなのか。私はこの商品を100円なら買うけど200円なら買わない。ある人は100円でも買わないかもしれない。50円にすれば全て売れるかも知れませんが、それでは商品が足りなくなってしまう。そこで需要と供給のバランスがもっともとれる価格はいくらかを導き出すためのアルゴリズムを研究しているんです。

実は修士になって最初の1年間は何をテーマに勉強すれ

ばいいのかわからなくて、正直何も出来なかったのですが、このテーマが見つかったからは毎日の研究がとても面白くなりました。この研究のヒン



トをつかんだのは去年の夏にドイツの大学で行われたセミナーに参加した時です。その時は先生の話聞いて、「ああこんなことがやりたいなあ」

と思った程度で具体的なものは見えていなかったのですが、2年生になって突然「これだ!」とひらめいたんですね。

夢だった留学を実現

私が海外留学を考えたのは高校生の時です。ベトナム人で進学したいと考えている人の多くが私と同じように留学したいと思っています。でもほとんどの人は経済的な理由や家庭の事情で国内の大学に進学します。私も高校を卒業後はベトナムのハノイ国家大学のコンピューター学科に進学しましたが、留学の夢は持ち続けていました。

そして、2年生のとき、いくつかの留学プログラムに申し込めるチャンスがあったのですが、その中で私は日本政府の国費留学生の試験を受け



ベトナムの有名な観光地 Da Lat で家族と一緒に（左端）

友達と沖縄でダイビングに挑戦！（右端）



ることにしたんです。日本を選んだのは、まずテレビや本などから受ける日本の印象が良かったということと、奨学金の額が高かったということ、それに欧米の試験と違って英語のテストがなかったというのも大きな理由です（笑）。

運良く試験に合格した私は、2005年に来日し、まず1年間大阪大学の日本語センターで日本語の習得に取り組みました。1日に100の単語を覚えなければならないなど、日本語の勉強は想像以上に大変でしたが、止めたい、帰りたいと思ったことは一度もありませんでした。たまにホームシックになることはありましたが、それよりも様々な国から来ている留学生たちと学べる環境は、新鮮で楽しいものでした。

その後、大学は大阪大学の基礎工学部に進学しました。

大学では最初の数ヶ月は、日本語力の不足から文系の授業は全くわかりませんでした。が、理数系の科目はだいたいわかりましたし、試験やレポートはインターネットを上手に活用したおかげで、それほど苦労せずに乗り切ることができました。

大阪での生活も楽しかったです。留学生の友人たちとはいろいろなことを話しましたし、よくパーティーもしました。彼らとは英語で話すことが多いので、ベトナムにいるときより英語力が上がったんです（笑）。大阪のベトナム人会や留学生協会のイベントにも参加して、積極的に大阪での留学生活を楽しみました。

実は今、東京に住んでみると、大阪の人は東京の人よりも親切だなあと感じる人が多いです。多くて、もしどちらかに住めと言われたら、また大阪に住みたいです（笑）。

留学生には無関心？

これまで5年間日本で生活をしてきて、不満はあまりないのですが、少し残念なのは日本人学生が留学生に対してあまり積極的ではないということです。私が話しかければ親切に対応してくれますが、日本人学生から私に話しかけてくることはあまりありません。それは私の周りにいる留学生みんなの意見です。

中にはそうでない人もいますが、ほとんどの日本人学生は留学生には関心がない、外国人の友達が欲しいとは思っていないように見えます。

ベトナムの大学にもラオスやカンボジアからの留学生がいますが、ベトナム人学生は彼らを見かけるとすごく嬉しくて、積極的に話しかけます。違う環境、文化の下で育ってきた彼らと友達になれたら、自分の知らない話が聞けて面白いの



ベトナム人の留学生仲間と日光の旅館で乾杯！
(右手前から2人目)

ABK 秋祭り 2010 で（2列目左から3人目）



はもちろん、勉強にもなりますから。日本にはベトナムよりたくさんの留学生がいるのに、日本人の学生はもったいないことをしているなと思います。

これからのこと

将来のことはまだ深く考えていませんが、今年就職活動をして日本の大手電気メーカーの研究所から内定をいただけたので、大学院を卒業する来年以降も日本で生活をする予定です。

いくつかの会社にエントリーをして、合格したのは1社だけだったのですが、その会社の面接が他と違ったのは研究に関することばかり聞かれたということです。他の会社は志望動機や性格のことなどが中心で、うまく答えられなかったのですが、研究に関することは、はっきりと自信を

持って答えられたと思っています。それから私は他の日本人学生と違って、どうしても就職しなければならないというプレッシャーがなかったので、リラックスして試験に臨めたのかもしれない。博士課程にも



興味があったので、就職がダメなら進学しようと思っていましたから。

でも内定をいただいた今は、とにかく「働きたい！」という気持ちでいっぱいです。新しいステージで自分を試して

みたい。そしてチャンスがあれば海外にも行ってみたいと思っています。

飲み会もグローバル化を

今少し心配なのは仕事よりも“飲み会”のことですね。日本で就職している先輩からは会社では毎週飲み会があると聞いていますし、参加しないと人間関係が悪くなるとも聞いています。私はお酒も飲めませんし、あの雰囲気も苦手です。研究室でもそうですが、なぜ日本人は飲み会がこんなに好きなのでしょう。もちろんコミュニケーションの機会として、ベトナムでもお酒の席はありますが、行きたくない人は行かなくてもいい自然な空気があります。

お酒の飲み方もグローバル化してくれると、もっと外国人は日本で働きやすくなるのでは？ それが今の日本に対するささやかな願いです（笑）。

おたより

2011年10月13日 オータン

冠省

いつも「アジアの友」をありがとうございます。過日、6月号から9月号まで拝受。早速拝見いたしました。堀先生のインタビューは一入懐かしく拝読。髪は白くなられたけれど、変わらぬ童顔で、お元気でしっかりしていらっしゃる様子、嬉しゅうございました。実は、私は第1回（実際は第2回：編集部注）北海道旅行に同行したので、その時の光景が甦り、一頻り、思い出に浸ったのでした。先生は、現在85才位でいらっしゃるかと思いますが、まだ、「現役」で、活躍していらっしゃるし、今の日本の情勢を見る眼もしっかりしていらっしゃる。わが身を顧みて、忸怩たるものがありました。遥かより末長い御健闘を祈ります。

Adiole さんのお話も興深く拝見。日本へ帰る度に感ずることですが、日本社会は閉鎖的だということ。殊に、肌の色が異う人達には住み難い国だと思います。外見では区別のつかない朝鮮人でも二世、三世で日本語しか話せなくても「在日」などと呼ばれるのですから。いつかスイスの山中で、東大出のエンジニア一家に遭ったことがありました。彼は日本でエンジニアとして就職したのですが、「在日」の人と結婚したら、家族から白い目で見られ、周りも冷たいのでカリフォルニアに移住、爾来日本に帰るつもりはないとか。三人の子供は、アメリカ人で、日本へは帰らないのでしょうか。米国もフランスも生地主義で、その地で生まれれば、自動的に国籍があります。近年の右翼政権は国籍にケチになり、フランス人の子供の親が外国人などというのもママあります。

地震、津波、原発、台風と天災、人災の多かった日本もそろそろ「天高い候」でしょうか。諸兄姉の御健闘を祈ります。

草々

アジア文化会館御一同様

小倉尚子

（在フランス、元 ABK 職員、初代「アジアの友」編集者）

校長先生

私は、今年の3月で ABK から卒業して、四国の徳島大学に進学しました。今は1年生として頑張っていますが、ABK で日本語を勉強した事は、一生の宝物です。

校長先生も、いつまでもご健康で明るい暮らしを送られますよう、お祈りいたします。

Lai Yuan Shan

※ ABK 小木曾理事長（ABK 日本語コース校長）のフェイスブックに届いたお便りです

News & Topics

ABK 小木曾理事長が秋の園遊会に出席

10月13日（木）、赤坂御苑（東京・元赤坂）で催された秋の園遊会に当協会の小木曾理事長が招待され出席しました。会には、サッカー女子日本（なでしこジャパン）代表の佐々木則夫監督、沢穂希選手、元大関魁皇の浅香山親方、福島県富岡町の遠藤勝也町長など、各界の功績者と政府・自治体関係者、その配偶者など計約2500人が招待されました。



タイ洪水募金を行いました



当協会では、この度のタイの洪水被害の義援金集めのため、「ABK 秋祭り2011」（10月22日）の会場（アジア文化会館）に募金箱を設置するなど募金活動を行った結果、およそ1週間で約12万円の義援金を集めることができました。ご協力いただいた皆様に御礼申し上げます。

TPAが「実用タイ日辞典・用例集《8,000語》」を発行

当協会の姉妹団体であるタイの泰日経済技術振興協会（TPA）は、タイ文字およびアルファベットの両方から検索が可能な辞典・用例集を発行しました。収録語彙は8000語以上、豊富な用例でその単語の適切な使用方法を理解することが可能です。

<著者：ウィライ・トーモラクン 価格：1000バーツ>

※ 現在日本では公式に販売しておりません



当協会には著者から6冊ご寄贈いただきました。

Event & Festival

タイ音楽&ロイカトンフェスティバル2011

いまや食のトレンドをリードする「タイフード」。本場の味をフェスティバルで楽しもう!!
タイ王国の文化の本当の魅力を多くの方々に楽しんでもらうためのビックイベント
「タイ音楽 & ロイカトンフェスティバル」を11月19日(土)・20日(日) 代々木公園で、
開催します。

★日時: 11月19日(土)、20日(日) AM 10:00~PM 19:00

★場所: 東京都代々木公園ケヤキ並木

(渋谷区代々木神園町 / JR「原宿」・地下鉄千代田線「代々木公園」(C02) 下車徒歩3分、小田急線
「代々木八幡」下車徒歩6分)

★出演アーティスト: オトメ☆コーポレーション、やないけいこ、藤谷桃、ミスタイランド、
日本セパタクロー協会、ラビスラズリ 他

★主催: 特定非営利活動法人 日本 INGO / B.M.I.Co.,Ltd

TEL: 03-6454-7362 FAX: 03-3395-0284

<http://www.bmi-music.com> E-Mail: bmi@bmi-music.com

Philosophy as Translation

翻訳という行為は、たんに意味をひとつの言語から別の言語に置き換えるにとどまらない。
完全な合致は存在せず、翻訳者は、翻訳を通じて異なる言語と文化の架橋しえない溝の深淵
へと落ちてゆくような経験をする。こうした広義の意味での翻訳は、翻訳しえないものの経
験、なじみ深いものの中で異質なものに邂逅し、自らの言語と文化の中で自らの場所を再発
見することに関わるものである。本講演では、このような翻訳の特質を「翻訳としての哲学」
(Philosophy as Translation) として明らかにし、それが外国語教育に対してもつ意義を考
察してゆく。

★講師: 斉藤 直子 氏 (京都大学大学院教育学研究科 准教授)

★日時: 11月21日(月) 17:00~19:00 (開場: 16:30)

★会場: 神田外語大学 6号館 プレゼンテーションルーム (入場無料)

(JR 総武線・京成電鉄利用の場合は、幕張駅南口下車徒歩約20分。または JR 幕張本郷駅南口 6 番バ
ス乗り場から京成バス)

★司会: ギブソン松井佳子 (神田外語大学教授・異文化コミュニケーション研究所所長)

★主催: 神田外語大学 異文化コミュニケーション研究所

〒261-0014 千葉県美浜区若葉 1-4-1 TEL/FAX: 043-273-2324

E-mail: icci@kanda.kuis.ac.jp <http://www.kuis.ac.jp/icci/>



しょうがくきんじょうほう 奨学金情報

■高久国際奨学財団

対象：①外国の国籍を有し在留資格「留学」

の学生 ②2011年4月時点で日本の大学院博士課程在籍（学部生、修士課程不可）

③本奨学生となった場合、他の奨学金・助成金等を受けていないこと。④東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県在住の学生。⑤日本語能力試験1級に準ずる会話力及び文章力を有する学生。⑥「月例会に必ず出席できる学生。⑦月末に400字のレポートを必ず提出できる学生。

給付金額（月額）：7万円

支給方法：毎月当財団月例会で手渡し

給付期間：2012年4月から2013年3月までの1年間。

募集人数：6名

応募方法：奨学金申込書を財団のホームページからダウンロードし、必要書類を添えて郵送する。（詳細は下記 URL 参照）

<http://www.takaku-foundation.com/>

募集締切：11月30日（水）

問合せ先：e-mail info@takaku-foundation.com

☎ /Fax 03-5485-6080

■徳洲会国際奨学財団

①学部課程奨学金

①日本以外の国籍を有し、日本の大学学部の在籍者又は入学（編入）許可を得ている者

②日本滞在5年以内の者。（医学部生は7年以内）③日本語能力検定試験2級以上取得者、又は同等程度と認められる者。④他の奨学金を受給していない者。ただし授業料の減免に関する金額は除く ⑤その他

給付金額（月額）：①10万円（前年実績）

給付期間：1年間

採用人数：約15名

応募方法：大学の留学生担当課を通じて申し込む。

募集締切：12月15日

問合せ先：☎ 03 (3238) 2913

E-mail zaidan@tokushukai.org

URL <http://www.tokushukai.org>

イベント情報

がいこくじんりゅうがくせいしゅうしよくかつどうじゅんぴ

外国人留学生就職活動準備セミナー 2011

日本^{にほん}で学ぶ^{まな}外国人^{がいこくじんりゅうがくせい}留学生^が、それぞれのキャリアデザイン^そに沿った^{しゅうしよく}就職^{りゅうがくせい}ができるよう、留学生^の就職・採用活動^{しゅうしよく}に関する有益な情報^{かん}を提供^{ゆうえき}することを目的として実施^{じょうほう}します。外国人留学生^{ていぎょう}（全学年対象^{もくてき}）と学校関係者^{しゅうし}の皆さま^{がいこくじんりゅうがくせい}の参加^{ぜんがく}をお待ちしております。

■日 時：大阪会場 2011年12月18日（日） 10:00～17:00

東京会場 2011年12月23日（金・祝） 10:00～17:00

■場 所：（大阪）大阪国際交流センター（大阪市天王寺区上本町 8-2-6 / 近鉄線「大阪上本町」14出口徒歩6分）
（東京）東京国際交流館プラザ平成（東京都江東区青海 2-2-1 / 新交通ゆりかもめ「船の科学館」東口徒歩3分）

■内 容：業界別セミナー、OBOG による就活体験談 他

■主 催：独立行政法人 日本学生支援機構

■お問合せ：外国人留学生就職活動準備セミナー運営事務局 Tel 048-485-2384

がいこくじんりゅうがくせいむ しゅうしよく

外国人留学生向け就職フェア（イベント）

外国人留学生を採用したいという企業が東京・大阪のべ 50 社参加する就職フェアです。2012 年 4 月～2013 年 3 月までに大学・大学院を、卒業あるいは卒業見込みの外国人留学生の方が対象です。

■日 時：東京開催 2011 年 12 月 17 日（土） 11:00～18:00（受付開始 / 10:30）

大阪開催 2011 年 12 月 23 日（金） 11:00～18:00（受付開始 / 10:30）

■場 所：（東京）秋葉原 UDX（4 階 / UDX GALLERY）（東京都千代田区外神田 4-14-1 / JR「秋葉原駅」（電気街口）より徒歩 2 分、東京メトロ銀座線「末広町駅」（1・3 番出口）より徒歩 3 分）
（大阪）御堂筋ホール心斎橋（9 階 / AB 室）（大阪市中央区西心斎橋 1-4-5 / 地下鉄御堂筋線「心斎橋駅」（1 番出口）より徒歩 1 分、地下鉄御堂筋線「心斎橋駅」（4 番出口）より徒歩 2 分）

■定 員：東京開催 1,200 名 大阪開催 400 名

■申込み：Web サイトから参加予約をしてください。予約をしていない方は参加できません。

■受 付：2011 年 10 月 1 日（土）～2011 年 12 月 12 日（月）

※ 定員を満たした場合、事前に予約受付を終了する予定です。参加を希望される方は、早めの予約をお願いいたします。

■主 催：（株）ベインキャリアジャパン

Web サイト <http://www.jobfair.jp/jp/fair2011.php>

MEMBERS

〈ご入会とご寄付の報告〉

2011年8月

特別会員

(3口)

(財) 海外技術者研修協会 足立区

(1口)

小峰工業(株)

北葛飾郡

(株) シーボン

港区

正会員

(1口)

二村 美朝子

練馬区

増岡 信男

流山市

藤林 泰

宮代町

倉部 絹代

対馬 節子

土屋 元子

浜田 洋子

大和 正國

佐藤 郁夫

伊藤 順

山田 裕子

関 正昭

荒井 不二雄

木村 博／劉 彩品

瀬尾 秀彰

荒川 雄彦

竹林 惟允

豊島 正大

永井 マス子

藤原 一枝

練馬区

品川区

千葉市

豊島区

鶴ヶ島市

仙台市

安曇野市

三鷹市

平塚市

小矢部市

川越市

北区

所沢市

練馬区

横浜市

川崎市

武蔵野市

2011年9月

正会員

(1口)

豊島 由久

所沢市

堀内 智代子

国分寺市

宮原 彬

長崎市

鴫田 純一／由美

千葉市

寺尾 方孝／三枝子

国分寺市

松崎 利夫

小浜市

竹田 繁

南陽市

小倉 美恵子

川崎市

稲澤 宏一

新宿区

ご寄付

栗原 静子

気仙沼市

ご報告

A B K 同窓生募金 (2011年9月31日現在)



ご協力ありがとうございました。募金のご報告は『アジアの友』並びに同窓会ホームページ
 < <http://www.abk.or.jp/abkd/fund/houmei roku.html> > で随時ご報告させていただきます。

●目標額：5,000万円

●募金額：14,860,113円

●寄付者数：325件

〈 〉 内は出身・在住国、地域、ABC 順。日本のみ五十音順

〈日本〉 荒川雄彦、伊藤順、小木曾建、齋藤美知子、佐藤郁夫、菅原照代、竹林惟允、田中美智子、
 土屋元子、寺尾方孝・三枝子、鴫田純一・由美、外山経子、豊島由久、中元菅根、野口明美、
 山口憲明、山田裕子、

〈シンガポール〉 黄名光

〈タイ〉 Kraisorn Throngnymchai

〈ラオス〉チャントソン・インタヴォン

〈台湾〉張忠信（在日）、堤井信力（在日）

以上、22件

2011年7月31日以前の寄付者（303件）

〈ブラジル〉セキヤ タチバナ、フランシスコ ヒロノリ イシハラ、ミズマ アイコ タチバナ

〈バングラデシュ〉A.K.M. Moazzem Hussain、橋本イスラム・ヌルール

〈中国〉魏慶鼎、戴志堅（在日）、李惠春、劉越（在日）、劉明華、沙蓮香、倪玉、孟令樺・計宇生（在日）、賈輔忠、蔡堅平、郭南燕、李春利、Meng Xiao Xiao、全浩、Zhou Xiang、可軍（広中軍二）、呂新一、Ou Yang Fei 欧陽菲（在日）、Wang Wen 王穩

〈カナダ〉張素華（香港）

〈香港〉Choi Man Wa 蔡敏華、梁志瞬、YEUNG KING HONG 楊經航 / 蔡金燕（マレーシア）

〈インド〉AAAWI(AOTS Alumni Association of Western India)、

ABK-AOTS Dosokai Chennai Center、A. P. Wagle、Abul Sharah、Ashok Saraf、雅留宮久磨（在日） / 澄子（日本）、M. Ramamurthy

〈インドネシア〉Budhi Setiawan Kohar

〈カンボジア〉忍足林基 / 美恵子（日本）

〈日本〉新井重光、池添尚行、池野朋彦・晶子、池森亮介、伊佐玲子、石井信彦、石原誉慎、石原廣、稲垣敏彦、井上恵子、井上駿、伊藤源之、伊藤順、岩尾明、岩佐佳英、上高子、植田泰史、畝本昌介、漆瀧才子、大久保伸枝、大谷里恵子、大村光、小木曾建(3)、小木曾大、小木曾友(3)、奥山節子、奥山義夫、小野寺武夫、小原正敏、加倉井弘行、勝部純基、河合秀高、川上剛、川崎依邦、北マツ、北川泰弘、北原千絵、北山文泰、久津間優子、工藤正司、工藤幹夫(3)、久保哲也、栗原静子、黒田一雄、香月恵美子、小林泰子、金野隆光(2)、早乙女和義・博子、酒井杏郎、佐藤正文(2)、佐藤玲、渋谷寧伸、清水勇治・泰代、尚美学園大学国際交流センター、白石勤、鈴木八重子、栖原暁、高木桂子、高道俊彦(2)、高野靖子、高橋喜久江、高橋作太郎、高柳直正、田川明子、田口昌子、竹嶋俊紀、竹田肇・和子、竹林惟允、田中多美子、田中稔子・静子、田中美智子、田中利恵子、谷口哲雄、田守智恵子(2)、近山武子、土屋幸子、鶴尾能子、鵜田純一・由美、堤祐子、戸田清、外山経子(5)、中曾根信(2)、中畠正喜、中原和夫、西垣宰朋、西嶋勝彦、西谷隆義、新田宣子、西原彰一、西村清人、西本梶、忍足絵美、忍足眞理、野村美知子、秦幸吉、濱田洋子、林均、樋川好美、平井まりこ、平岡明子、平峯克、福讓二、藤原一枝、布施知子、細川哲士、堀香奈美、堀幸夫、堀内智代子、横操、牧美保子、松井正枝、松岡弘、松崎松平、宮内俊治、村山秀男、森尾正照、藪下勝、山海保、山口憲明(2)、山崎光郎、山田守一、山之内正彦・萩子、湯山佳代、依田良子、吉田菜穂子、吉田裕子、吉原エツ子、六文会、渡辺讓二、匿名希望(3名)、50周年委員会売上

〈韓国〉韓英鳩、崔銀珠、Oh Bum Suk、Youn Seong Kook 尹誠國

〈マレーシア〉Ang Wan Leng、Beh Teck Chuan、CHANG CHEW CHIN 張昭成、

CHEW CHONG SENG 周昌盛、CHIA LITECK 謝礼得、Chiu Jin Eng 冰周人英 / 林恵冰、CHONG TECK FOO 張德福、EE LEY TIONG 余励忠、FOO MING LIAN 符明蓮、FOO SIANG

SENG 符祥盛、FOO SOO KONG 符素光、HEONG SEE YONG 香世運、KENNETH WONG 黃復翔、LEE KIAN LING 李建霖、LEE KONG/LAM CHOK YAK、LEE MIOW YING 李妙英、Lee Tee Boon、LEONG KEE HUO 梁其和、LIEW TECK BOON 劉德文、Lim Hock Lai、LIM SIN YEAN 林欣燕、LOKE HON YEE 陸漢宇、LOW KIM LEE 劉金莉、NG TIAN ENG 黃殿英、ONG CHENG CHUAN 王清川、ONG CHOOI LEE 王翠莉、PANG CHOON BOON 彭俊文、POH SIEW HUI 傅秀慧、Seah Boon Chieng、SIM KEE HONG 沈其豐、Soon Sai Kheng、SOO SECK HENG 蘇錫興、SU KUI SHENG 蘇桂昇、Tan Cheet Yong、TAN KEEHANG 陳繼漢、Tan See Seng 陳時生、TAN SOO SIN 陳素芯、Tan Wee Pin、Tan Wee Seng、TANG ENG HUAT 陳永發、TENG KIM YIN 鄧錦雲、TEO KWEE SWEE 張貴水、Tiang Chuan Seong 鄭俊雄 Toh Leong Chee、WONG FEE PING 黃慧萍、WONG SENG KENG 黃成耕、WONG TZONG CHYANG 黃宗強

〈ミャンマー〉 Aung Kyaw

〈ペルー〉 Olga Shimada Keiko

〈パキスタン〉 A.R.Siddiqi

〈シンガポール〉 Foo Choo Wei、顔尚強、王堯其

〈台湾〉 Chen Ai Chi 陳艾圻、Liu Li Mei

〈タイ〉 浅見博子、Bandihit Rojarayanont、Chamlong Srimuang、Chanintorn Mekaratana、Chovet Yimsirikul、Ditdi Chatputtongul、Gannnigar Koontanakulvong、神崎ソラダ(在日)、Kornkeo Praisontarangkul、Krisada Visavateeranon、Meena Thamchaipenet、Mongkol Pianapitham、Navarat Srisuponvanit、Niramai Thanatavee、小野崎忠士、Patamavadee (Bongsayan) Narushiso、Phiphat Chaichanavichakij、Pholchai Limviphuvadh、Pilaipan Mekaratana(2)、Pisan Thanatavee、Pomanong Niyomka H.、Prayad Kongkasawad、Prayoon Shiowatana、Saowanee Patrakarn、Sathida Mekaratana、新宅光、Sivaporn Sirilaththayakorn、Sucharit Koontanakulvong、Suchittra Hunbuncharkit(2)、Supong Chayutsahakij、Suthee Chutchaiwett、Suvit Vibulsresth、Tana Tangtrongsakdi、泰日経済技術振興協会、泰日工業大学 (THAI-NICHI INSTITUTE OF TECHNOLOGY)、Vachiraneer Limviphuvadh、Vachiraporn Limviphuvadh、Virat Thiravathanavong、Wannadee O'sorup、Wiwut Tanthapanichakoon、柳瀬修三、Yoshiko Limviphuvadh

〈アメリカ〉 宮下偉路 (趙偉路; 中国・日本)

〈ベトナム〉 Dao Thi Minh、ドンズー日本語学校、Le Quynh Chi、To Buu Luong、Nguyen An Trung、Tran Thanh Viet

募金に関するメール

2011/8/4

東日本大震災、原発被害と余震が続いており、今後数十年その対応に追われそうです。

(佐藤郁夫；仙台市)

2011/9/6

原発事故の影響で就学生が減ったと耳にしましたが、ABKのますますのご発展を祈り上げます。

(堀内智代子)

2011/9/12

年度末までに30,000円送金予定。合計50,000円といたします。ご笑納ください。御健闘下さい。(中元菅根；鹿児島県西之表市西之表)

2011/9/10

鹿児島県種子島にお住まいの「なかもとすがね(中元菅根)」様(男性)より次のお電話をいただきました。

「60年前、五一さんにはお世話になりました。田井さんはお元気ですか？ 同窓生募金ですが、5千万ということは千人が5万円ずつ寄付すればいいのね。今は2万円しか用意できませんが、来春4月までには残り3万円を送ります。」

82歳とか仰っておられましたが、ずっとお声は若々しい雰囲気でした。アジアの友をご覧になりながらお話しされているご様子でした。

2011/10/5

こんにちは。ブラジルからの寄付が遅々として進みませですみません。ほとんど元在館生の現住所がつかめません。ところで明日急に日系の新聞社に山之内さんと一緒にいくことにしました。新聞

社が かつての人がすぐ思い出せるようにアジア文化会館の建物の写真があればというのですが…。もしあれば大至急メールで送っていただけますでしょうか。なるべく画質のよいのがいいですが。そちらの時間で10月5日(水曜日)午後11時頃までに着けば間に合います。どうぞよろしく。 aiko mizuma tachibana (ブラジル)

<タイ洪水の為 10/16 イベント延期>

① 2011/10/12

Refer to the Government announcement, the flood situation has reached a crisis and the worst is yet to come. Downstream provinces near the Chao Phraya Dam and Bangkok will be hard hit by floods from October 15-17 as impending storms are expected to coincide with high tides in the sea. I regret to inform you that we have to postpone the event of the 43rd Anniversary of ABK & AOTS Alumni Association (Thailand) for Raising Fund to rebuild ABK Building in Japan on October 16, 2011. Please accept our deeply apology for unexpected incident. When we reschedule the event, we urgently inform you. Best Regards, Ms.Maliwan Dejaritt
Secretary-General ABK & AOTS Alumni Association (Thailand) www.abk-aots.org
email:alumni@abk-aots.org

② 2011/10/13

Dear Sir, Refer to the Government announcement, the flood situation has reached a crisis and the worst is yet to

come. Downstream provinces near the Chao Phraya Dam and Bangkok will be hard hit by floods from October 15-20 as impending storms are expected to coincide with high tides in the sea. I regret to inform you that we have to postpone the event of the 43rd Anniversary of ABK & AOTS Alumni Association (Thailand) for Raising Fund to rebuild ABK Building in Japan on October 16, 2011, at 17:30 -21:00 p.m., at Thai Army Club. Please accept our deeply apology for unexpected incident. We reschedule the 43rd Anniversary of ABK & AOTS Alumni Association (Thailand) for Raising Fund to rebuild ABK Building in Japan to NOVEMBER 28, 2011, at 17:30 -21:00 p.m., at Thai Army Club, Vipavadee-Rungsit Rd., Bangkok. Please be informed.

Yours sincerely,
Mrs.Pimpilai Lertphaiboon
President, ABK & AOTS Alumni Association (Thailand)
Tel. 02-238-5235-6 Fax. 02-634-0265
E-mail : alumni@abk-aots.org

③ 2011/10/14

The new date of Japanese Cultural Night will be held on 28 November 2011, at 17:30-21:00, at the same place. Agenda is the same. Thank you for your bless. We worry about our Japanese friends who invest in manufacturing, especially in Ayudhaya. Keep in touch, Maliwan

2011/10/20

今日、禹スグンさんに会いました。ABK 同窓生

募金のことを話したら、よく知らせてくれたと大変喜んでくれました。やはりできるだけ多くの人に知らせつことの大切さを知りました。そこで、提案ですが、今度の秋祭りの会場に、募金箱“ABK 同窓生募金 新しいABK 建設の為に”を置いてはどうでしょうか。ABK が今こんなことをやっているということをみんなに知らせるためです。そして、記念銘板に書く名前は“秋祭り募金 2011.10”等としてはどうでしょうか。ご検討ください。(小木曾友；上海より)

2011/10/20

昨日、小木曾さんにお会いしました。久しぶりの再会、本当に、本当に、非常に、めちゃくちゃ非常に嬉しかったです。短い時間だったけれども、お別れしてからは、涙が出るぐらい嬉しくって、又のお別れが寂しかったのです。小木曾さんにもお願いしたけれども、これからは僕も“上海のABK 同窓生”を作るためにも頑張りたいと思います。そこで、ABK のご協力も必要ですが、まず、中国に住んでいる ABK 同窓生の連絡先などを教えてください。これを持って、僕が彼らに連絡しながら徐々に、同窓会の基盤を固めていきたいと思しますので。このようにして、我々の ABK が、ABK の精神が永遠に輝くようにみんなで協力しましょうね。それでは、今日はここまで。

(禹守根；韓国；中国上海 東華大學 國際教育中心教授；上海)

追記：ABK への募金、僕もささやかな気持ちをお見せしました。^@^

Information

10月16日(日)に予定されていましたが「One Night at Asia Bunka Kaikan(ABK の一夜 in タイランド)」は、この度のタイの洪水被害のため延期となりました。

ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人ですので、財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

協会のあらまし

名 称：財団法人アジア学生文化協会

ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION

(ASCA)

所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長 小木曾 友

設 立：1957年（昭和32年）9月18日

故穂積五一氏創設

目 的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的相和と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

◆主な事業◆

- (1) 留学生宿舍の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社)日・タイ経済協力協会、ABK留学生友の会との連携・協力

◆会費（年額）◆

正会員 1口 1万円

賛助会員 1口 5万円

特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間3千円（学生2千円）でお送りしています。

本誌で広告してみませんか。

団体・企業を問わず、編集部へご相談ください。

2012年度版

私費外国人留学生のための 大学入学案内

「私費外国人留学生のための 大学入学案内 2012 年度版」

編集・発行：(財)アジア学生文化協会

監修：(独)日本学生支援機構

発売：凡人社

定価：2,415 円（消費税込み）

外国人留学生の皆さんが利用しやすいように編集されています。大学、短期大学の学部学科の入試情報を掲載大学名、学部名、学科名での検索が可能。日本留学試験利用校一覧あって便利にご利用いただけます。

ご購入は、全国の書店または凡人社 ☎ 03-3263-3959) まで。

後 記

10月16日（日）にタイのバンコクで開催を予定されていたABK-AOTSタイ同窓会主催『One Night at Asia Bunka Kaikan: ABKの一夜 in タイランド』が、タイ国の未曾有の洪水被害の為、延期となりました。このイベントは、ABK新校舎建設の為にタイ同窓会が、その募金を集めるために企画してくれた催しです。タイの雨期も終末期で降り続いた雨はすでに止んでいるとのこと。後は、一時も早く水が引くのを願うばかりです。水が引いて、初めて実被害状況が判明するものと思います。ABKは、まずは気持ちを伝えるための洪水募金を行い、在日タイ大使館へ集まった募金を送らせていただきました。洪水被害に遭われた関係者の皆様へ、お見舞いを申し上げます。(F) イラクのジャビリさんが41年振りに突然ABKを訪問。1960年完成したばかりのABKに入館し、その時学生と一緒に暮らしていた小木曾さん（現当協会理事長）との対面の席に同席し、ジャビリさんの約半世紀に亘る話を伺いざっとまとめさせていただきました。遠いイラクの国情を、ジャビリさんを通し改めて身近なものとして認識させられました。(F)

アジアの友 2011 年 10-11 月号

2011 年 10 月 20 日発行（通刊第493号）

年間購読（送料共）3,000円（学生2,000円） 1部 500 円（税込）

発行人 小木曾 友

編集 アジアの友編集部

発行所 財団法人 アジア学生文化協会

東京都文京区本駒込2-12-13 ☎ 113-8642)

電話番号：03-3946-7565/4121 ファクシミリ：03-3946-7599

振替口座：00150-0-56754 E-mail: tomo@abk.or.jp

ホームページ：(http://www.abk.or.jp/)

published by ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
(ASIA BUNKA KAIKAN)

2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN

☎ +81-3-3946-7565/4121 ☎ +81-3-3946-7599

Email: tomo@abk.or.jp

Home Page: http://www.abk.or.jp/

「アジアの友」の購読会員（年3,000円・学生2,000）にご入会下さい。振替用紙又は電話等にて。

「ABK 同窓生募金」へのご協力をお願い

(財) アジア学生文化協会では、現在、下記の通り、「ABK 同窓生募金」を行っています。これまで長年にわたって ABK と縁を結んだ方々皆様 (留学生 OB・OG をはじめ、日本人関係者) にご協力をお願いしています。なお、ご寄付して下さった方々は、そのお名前を、金額の多寡にかかわらず、記念銘板に刻印し、長く保存させていただく考えております。また、高額寄付者への顕彰を別途用意いたします。世界的な不況の折、誠に心苦しい限りですが、何卒、ご理解とご協力を下さいますようお願い申し上げます。

財団法人アジア学生文化協会 (ASCA)

理事長 小木曾 友

募金内容

- | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|---|-------|------------|------|-----------------|------|----------------|-----|----------------------------------|--------|---------------|------|----------------|
| 1. 名 称 | 同窓生募金 | | | | | | | | | | | | |
| 2. 目標額 | 50,000,000 円 (伍仟萬円也) | | | | | | | | | | | | |
| 3. 寄付金額 | 一口 10,000 円 < 一口未満でもお受けします。但し、一口未満の時は 1000 円以上でお願いします > | | | | | | | | | | | | |
| 4. 使 途 | ABK が設立する学校法人の「運営資金」に当てる (注)
(注) 学校設立には、校舎建設資金 (約 5 億円) のほかに、教育の健全性を保証するために「運営資金」 (約 5,000 万円) を所有することが必要です。募金はそのためのものとします。 | | | | | | | | | | | | |
| 5. 募金対象 | ABK と兄弟寮に居住したことのある各国 (在日を含む) 留学生・技術研修生・日本人学生の OB/OG (約 1,000 人)、ABK 日本語コースの卒業生 (約 4,000 人)、及び ASCA の日本人職員・会員等 (約 1,000 人)、並びに本募金趣旨に賛同されるすべての皆様 | | | | | | | | | | | | |
| 6. 期 間 | 2010 年 4 月 1 日から 2 年間 | | | | | | | | | | | | |
| 7. 送金方法 | 次の 1)、2)、3) のいずれかの方法で、ご送金下さい。
1) クレジットカード決済による送金 (下記ウェブサイトで手続きできます)
寄付のお申し込み http://www.abk.or.jp/abkd/fund/fund.html
* セキュリティ上の必要から、1 回の送金は上限 300,000 円 (参拾万円也) でお願いします。
2) 銀行振込みによる送金 (下記銀行口座にお振り込み下さい)
<table border="1" data-bbox="367 1266 1017 1391"><tr><td>銀 行 名</td><td>みずほ銀行 本郷支店</td></tr><tr><td>口座番号</td><td>普通預金 NO.2789045</td></tr><tr><td>口座名義</td><td>財団法人 アジア学生文化協会</td></tr><tr><td>住 所</td><td>東京都文京区本駒込 2-12-13 ☎ 03-3946-4121</td></tr></table>
3) 郵便振替による送金
<table border="1" data-bbox="367 1442 798 1513"><tr><td>郵便振替口座</td><td>00150-0-56754</td></tr><tr><td>加入者名</td><td>財団法人 アジア学生文化協会</td></tr></table> | 銀 行 名 | みずほ銀行 本郷支店 | 口座番号 | 普通預金 NO.2789045 | 口座名義 | 財団法人 アジア学生文化協会 | 住 所 | 東京都文京区本駒込 2-12-13 ☎ 03-3946-4121 | 郵便振替口座 | 00150-0-56754 | 加入者名 | 財団法人 アジア学生文化協会 |
| 銀 行 名 | みずほ銀行 本郷支店 | | | | | | | | | | | | |
| 口座番号 | 普通預金 NO.2789045 | | | | | | | | | | | | |
| 口座名義 | 財団法人 アジア学生文化協会 | | | | | | | | | | | | |
| 住 所 | 東京都文京区本駒込 2-12-13 ☎ 03-3946-4121 | | | | | | | | | | | | |
| 郵便振替口座 | 00150-0-56754 | | | | | | | | | | | | |
| 加入者名 | 財団法人 アジア学生文化協会 | | | | | | | | | | | | |

* 振替用紙は「アジアの友」に挟み込まれています

お問合せ先: (財) アジア学生文化協会 50 周年記念事業委員会事務局

〒113-8642 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館

Tel.+81-3-3946-4121 Fax.+81-3-3946-7566 E-mail: asca50com@abk.or.jp